

○四條畷市の場合と、私が経験したことということで、報告をさせていただきたい。

○私自身が保健師なので、もともと保健センターにいた。

そこでよくあるのが、保護者から、出生時A B R（聴性脳幹反応）検査等を受けて、聴覚障がいかもしれないと言われたとか、1カ月健診は、医療機関で受けるのですが、その結果が市のほうに返ってきて、聴覚障がいの疑いで結果が来ていて、そのあと連絡させてもらうこと。

四條畷市でいえば、人口5万7000人なので、年間1人いるかいないかというぐらいの程度だが、最近保健センターに聞いてみたところ、乳幼児相談や、保健師の訪問、新生児訪問、こんにちは赤ちゃん訪問、1カ月健診、4カ月健診、後期健診、1歳半健診、3歳半健診というところで健診をしていて、その中で聴覚の確認はそれぞれしているが、生まれつき聴覚に障がいがあるという場合は、ほぼ出生時に確認されていることが多いと聞いている。

ほかの障がいも合併される子どもさんなどは、心臓の手術を受けるのでということで、障がい福祉課に相談があったりだとか、サービスを何か使いたいということで、障がい福祉課のほうに連絡があることもある。

○支援については、特に保健センターでは、一番最初に、子どもさんに聴覚障がいがあるかもしれないと言われたときに、保護者の方の気持ちの揺れみたいなどころがあるので、そこを一緒に相談させていただいたり、必要な支援機関やサービスにつながり、医療につながる必要がある場合は、健診などを経て、医療機関に紹介させてもらう場合もある。

○私自身が、手話や聴覚障がいについて、それほど経験、知識もないので、とても助かったのが、寝屋川市にある「ぴよんぴよん教室」というところで聴覚障がい児の支援をされていて、子どもさんが通って、いろいろ支援を受けるとともに、保護者のほうも勉強されるという教室があって、結構小さいうちから通うことが可能であったので、ここがとても心強い存在であった。

あと、場合によっては、補装具やいろいろな日常生活用具等の障がい福祉サービス等を紹介させてもらったりしている。

補聴器については、もともと「障害者総合支援法」に基づく補装具の補聴器という部分と、軽度難聴の子どもさんの、大阪府の難聴児補聴器交付事業が今まであった。

○もう少し軽度の子どもさんについては、学習上に問題があったりするので、軽度難聴、もしくは片方の聞こえが悪くて、片方が聞こえないという場合の補聴器の購入

の助成をしてほしいというご要望をずっと受けていたので、今年度から、大阪府の子育て支援交付金を活用して、事業を始めている。

○あとは、聴覚障がい児親の会というのがあり、聴覚障がい児親の会と身体障がい者福祉会ろうあ部会、手話サークルと、毎年懇談会を実施している。

この親の会が、特に夏休み、春休み、休みの期間、聴覚支援学校に行っておられるお子さんが多いが、地域で遊ぶ相手がない、そういう集える場所をつくってほしいというご要望、ご意見があり、聴覚障がい児の集いというのを予算はないが、場所や情報の提供をしている。

聴覚支援学校にお世話になったり、地域の学校に行かれています方については、就学時相談などを活用してもらっている。

○「養成」については、聴覚障がい児のお母さんお父さんが手話を習う場所がなかなか思い浮かばなかったもので、まずは地域の手話講習会などを紹介している。

○課題としては、私自身が、この18歳未満のところでは、早期に手話に触れる機会が大事だという点、やはり一番最初に出会うのは、四條畷だと医療機関、もしくは保健センターの保健師かと思うので、そこの役割がとても重要だと思う。聴覚障がい児の子どもたちが、手話で話す機会が少ない、地域との交流が少ないという課題があるので、もっと地域でも聞こえる人も手話ができると、地域での活動がもっともっと活発になるのではないかと思う。

○18歳以上については、主に高齢者の手帳の申請や福祉サービスの申請等の際の相談や、必要なサービスへのつながりを、障がい福祉課に、手話通訳士2人、税務課に1人、市民課に1人、本市は、手話通訳士が4人、市役所にいるので、必要に応じて相談をさせてもらっているところ。

○地域交流会について、もともと聴覚障がいの方が多い地域が2地域あって、そこで暮らすのに、地域の方にもその方々を理解してもらいたいということと、手話を学びたいということを経営の方がおっしゃったので、2つの地域で、公民館でお茶でも飲みながら手話でしゃべるといった交流会が開催されていたが、最近、聴覚障がいのある方が高齢化してきたり、手話を学んでいた方も高齢化してきたりしてなかなか活発には活動していないが、そういった場もある。

○障がい者相談支援センターのサロンが、ろうあ部会からのご要望で、年がたって、例えばデイサービスや、いろいろな介護保険サービスに行ったりなど、そこまでで

はないけれども、行っても話ができないので楽しくないということと、手話で、みんなでしゃべる機会がほしい、聴覚障がい者が使えるサービスがもっとほしいなど、いろいろとご意見をいただいているので、いっとき休止になっていたが、障がい者相談支援センターで、月1回から今は始めており、聴覚障がい者に特化した日にちを設けてやっている。あとは、聴覚障がい者のピアカウンセラーやうちの手話通訳士に、ほかに何かサービスや利用されるものはないかと聞くと、大阪府のジョブコーチや、聴覚障がい者等ワークライフ支援ワーカー等で仕事をしたいという聴覚障がい者には、支援を協力しているという意見を聞いている。

○大人についての課題としては、毎年、いろいろなご要望をたくさんいただいております、今、活動されている身体障がい者福祉会の方々でいうと、だんだん高齢化されてきて介護が必要となってきたけれども、なかなか利用できるサービスがないというところが課題かと思っていて、いろいろな手話講習会等に介護事業所の職員も誘わせてもらったり、それで受けていただくところもあったり、最近では、お母さんが聴覚障がいの人の子どもさんが、保育所に通うようになって、保育士さんが講習会に来たいと言ってくれたり、少しずつ、そういった動きはあるが、なかなか、まだまだ追いついていない。

○手話通訳者派遣事業については、要綱で定め、必要なときに派遣させてもらっているが、日常の買い物などは少し行けないが、先日は歴史ボランティア養成講座があったので、それに行きたいとおっしゃって、それは勉強するためだし、派遣させてもらって、すごくよかったとお礼を言いに来てくださいました。それで、今度はボランティア活動も本当はしたいとなったときに、どこまで派遣できるのかなと迷う。本当はすべての場面で派遣できたら一番いいなというところはあるが、そのあたりだとか、お産などもあって、お産も結局、通訳を全部つかせてもらったが、全部の場面で、どこでも通訳がつけば一番いいとは思いますが、なかなか、どこまで派遣できるか判断に迷う。いろいろな場面、場所で、手話のできる人がたくさんいたら一番いいなと思うが、なかなかそこまでいかないのが、まだまだ課題かと思っている。